

Noto PLUS

4

つくも 九十九なる 良き学び舎から

3年前、東日本大震災直後に入学した18人は
小木地区の防災・まちづくりの先駆者として活躍。
この日、学び舎から旅立ちました。



【写真】小木中学校卒業証書授与式（3月13日）



広報のと
第110号

平成26年4月1日発行

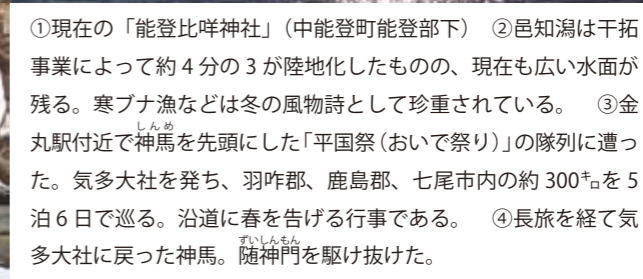
発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎0768-62-11000(他)
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記④ 5月11日、七尾から気多大社へ



①現在の「能登比咩神社」（中能登町能登部下） ②邑知潟は干拓事業によって約4分の3が陸地化したものの、現在も広い水面が残る。寒ブナ漁などは冬の風物詩として珍重されている。 ③金丸駅付近で神馬を先頭にした「平国祭（おいで祭り）」の隊列に遭った。気多大社を發ち、羽咋郡、鹿島郡、七尾市内の約300kmを5泊6日で巡る。沿道に春を告げる行事である。 ④長旅を経て気多大社に戻った神馬。随神門を駆け抜けた。

七尾の町中では知り合いを二、三訪問して、本宮（気多本宮・能登生国玉比古神社）の森にでます。小石のまばらな道を、飯川・黒木・羽坂・よし川、そして能登部上村に。さらに下村（中能登町）、金丸（同）、千路（羽咋市）、柳田（同）を経て一の宮に至ります。上村余喜比古神社の禰宜・清水某のもとを訪ねましたが留守。かわりに代勤めの「直記」と会い、清水姓を詠み込んだ歌を送りました。

君ここに宿し尽せぬ水なればなほ行末の旅やきよめん
能登部下村には能登比咩神社があり、気多大社の「おいで祭」還幸のおりは（鎮座以来の伝承により）稗粥を供し奉る古例があつて、能登部上村の余喜比古神社（現在はすぐ近くの御門主比古神社に合祀）とは兄妹神です。鹿島路、千路、柳田までは三里あまりの潟（邑地潟）があり、人々はこの潟漁で生計をたてています。

ひくあみの うきめにもれぬ潟魚の
鯉とは人の おもはざらめや

日が暮れてから一の宮に着き、なんとか宿を見つけ、さっそく気多の大宮司に会いました。

思ひきや 佐野のわたりに宿なきを
けふの今宵の うきにしれとは
一軒の宿に断られ鬱屈とした日だったようです。



寛政の旅人：加藤吉彦（かとう・えひこ）。寛政9（1797）年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄（かとう・みちお=写真）。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」4月号の印刷費は一部当たり32円です。

